

五期俳句会第百七十一回十一月三日

今回今井さんが急用が出来て欠席、投句は私が色々俳句のことで忙しいのを氣遣って塩田さん宛てに送られ行き違いで、当日間に合わず。

他にも私の手元へ来てから選句に手間取って。遅くなりました。

池の面もにただよふ敗荷鳥に見ゆ

松浦武子

虫の声みだれ夜中に救急車

久貝貞子

山門の鈴なりの柿風情かな

塩田豆子

洛北はもう紅葉かいざ行かん

松浦武子

上弦の青き月見ゆ夜半よはの秋

塩田豆子

干し柿ちの小さくともしわ一人前

浅香さとみ

親芋は子をしかと抱き掘られをり

久貝貞子

剥きたての渋柿強気で陽を反す

浅香さとみ

伸びぬ腰延ばして待ちぬ立待月

浅香さとみ

薄紅葉季節の替り伝えけり

久貝貞子

秋の夜や読書合い間の濃き茶かな

塩田豆子

暮れなずむ空に鮮やか後の月

松浦武子

茱萸ぐみ熟るる甘さの中の渋みかな

松浦武子

遠目にはばらと見紛ふ秋葵

塩田豆子

天高く七草野辺にゆれ揺れて

塩田豆子

伏せ目なる菩薩を仰ぎ秋惜しむ

今井由紀子

渋柿の色も甘味も深くなり

今井由紀子

松の風よりやさしきや萩の風

今井由紀子

俳句は良い頭の体操になります。今5名しか居ないので一人お休みすると、大変です。男の方も歓迎しますのでどうぞ、最初はのぞきに来るぐらいから参加を募ります。

テレビのプレバトを見て一考をお願いします。

毎月第一火曜日です。

宜しく！